



2023年12月29日

各 位

会社名 株式会社Q P S 研究所
代表者名 代表取締役社長 CEO 大西 俊輔
(コード：5595、東証グロース市場)
問い合わせ先 代表取締役副社長 COO 市來 敏光
(TEL. 092-751-3446)

投資家の皆さまより寄せられたご質問及び回答内容公開のお知らせ

平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

当社は、黎明期にある宇宙産業に属しながら、株式を上場する数少ない企業として、株式市場において広く投資家の事業理解を促進する責任があるものと認識しております。そのような認識の下、2023年12月6日の当社株式の上場直後より、投資家の皆さまから数多くのご質問をいただき回答いたしました。

時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります。最新の当社方針に基づく直近の回答内容を以下のとおり公表いたします。本公表は、情報発信の強化及びフェアディスクロージャーの観点から、今後も定期的の実施させていただく予定です。

なお当社では、投資家からの質問に公平かつ正確に対応するべく、お電話によるIRに関するお問い合わせには対応しておりません。ご質問については、以下のお問い合わせフォームへ寄せられた内容に、順次対応しております。

【お問い合わせフォーム】

<https://i-qps.net/contact/>

お問い合わせ内容「投資に関するお問い合わせ」をご指定ください。

1. 当社業績に関するお問い合わせ

Q1. 過去の業績との比較は？

A1. 今期（2024年5月期）第1四半期までの当社業績は、実証試験機（QPS-SAR 2号機）1機による画像販売に支えられたものです。前々期（2022年5月期）から前期（2023年5月期）において、売上高は1,884%上昇しました。今期については、分解能を始めとする性能を向上させた商用機（QPS-SAR 6号機）による画像販売を2023年10月より開始しております。

また2023年12月には、同じく商用機であるQPS-SAR 5号機も打上げに成功し、今後も売上高を大きく成長させていく見込みであることから、現時点において過去の業績との単純な比較は難しいものと考えております。

Q2. 四半期ごとの偏重傾向は？

A2. 現時点において季節性の傾向はございませんが、衛星の打上げ時には一定のコストを計上しており、打上げが一時期に集中した場合には一定のコストインパクトが生じる見込みです。弊社事業における主要なコストは、衛星の開発・打上げコストであり、これらは減価償却の対象です。画像販売が可能となる定常運用の開始と同時に、定額法による5年間の償却が始まりますので、稼働する衛星の機数増加に合わせて、償却額は今後徐々に増加していきます。

また、当社では衛星の開発・打上げリスクに保険（以下、宇宙保険）を付保しており、その費用に関しては打上げ時に一括計上されます。保険料は各種条件によって異なりますが、1機あたり数千円が計上されます。

Q3. 衛星の打上げに失敗した場合の影響は？

A3. 宇宙保険が実際に支払われた実績は、2023年12月6日に開示しております「事業計画及び成長可能性に関する事項」、「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」に記載のとおりです。前期（2023年5月期）における影響額は、▲52百万円（固定資産除却損 1,541

百万円 - 受取保険金 1,489百万円) となりました。

2022年10月：イプシロン6号機の打上げ失敗に伴い、QPS-SAR3・4号機を同時に喪失
QPS-SAR3・4号機除却損として、1,541百万円を特別損失に計上

2023年2月：保険金1,489百万円を受領し、特別利益を計上

2. 衛星打上げに関するお問い合わせ

Q1. 打上げウィンドウとは？

A1. 一般的にロケットの打上げ日時は、天候その他の条件が整うまで確定することはありません。予定は「打上げウィンドウ」として、打上げ事業者により一定の期間や特定の日時が設定され、その期間内あるいは特定の日時以降に打上げが実施されます。

Q2. 打上げ日時はいつ確定する？

A2. ロケットの打上げ準備が進むと共に、打上げウィンドウは徐々に期間が絞られていきます。最終的には打上げ事業者において、天候やその他の条件が十分に整ったことを確認して決定されます。打上げ事業者が打上げ日時を正式決定するまでは、衛星会社側に連絡がなされることはなく、連絡が直前となる場合も一般的です。

Q3. QPS-SAR5号機はどうなった？

A3. 「事業計画及び成長可能性に関する事項」P.24に記載のとおり、2023年12月13日以降の打上げを当初予定し、2023年12月15日13時過ぎに打上げられました。現在は販売可能な画像の取得に向けて、軌道上で初期運用を進めております。初画像（ファーストライト）の取得は、2024年1月中となる見込みです。

Q4. 今後の打上げ計画は？

A4. 2028年5月期に24機体制を構築し、その後36機体制の構築に向けた検討を進めていく計画でございます。「事業計画及び成長可能性に関する事項」P.26に記載のとおり、現時点における今後の打上げ計画は以下のとおりです。

今期（2024年5月期）4機・・・QPS-SAR5号機・6号機打上げ済につき、残り2機

来期（2025年5月期）4機

再来期（2026年5月期）6機

3. 資金調達に関するお問い合わせ

Q1. 資金は十分にある？

A1. 「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」に記載のとおり、2023年8月末時点における現金及び預金の残高は26.8億円であり、継続的な事業運営に十分な資金を確保しております。その後、2023年10月24日付で組成金額50.0億円のシンジケートローン契約の締結と、2023年12月6日付の東京証券取引所グロース市場への株式上場に伴う公募による36.7億円（オーバーアロットメントによる売出分を含む）の資金調達を実施しております。

4. IR活動に関するお問い合わせ

Q1. 説明会等は開催する？

A1. 当社は、株主・投資家の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様との信頼関係を構築し、当社の価値を正當に評価していただくことをIR活動の目的とします。そのため、ステークホルダーとの建設的な対話の実現に努めつつ、当社の実態を正確に認識・判断できるよう情報を公平かつ適時・正確に提供することを基本方針といたします。

個人投資家向け説明会等への登壇についても、今後定期的に変更できるよう検討しております。ご参考までに、上場後に公開しました当社の事業内容に関する説明動画をご紹介します。

2023年12月6日配信（イベントス様）：<https://youtu.be/AufWEph6CfA>

2023年12月7日配信（ストックボイス様）：<https://youtu.be/pfeOoSDGKx4>

以上